

郡山市民生児童委員協議会連合会

(平成27年2月)

(1) 地域の情報

郡山市は、福島県の中央に位置し、東北地方では仙台市に次いで第2位の人口規模を誇る東北の拠点都市です。首都圏から東北新幹線で約80分というアクセスの良さに加え、鉄道や東北・磐越両自動車道が縦横に交差するなど、交通の利便性が良いことから「陸の港」とも称され、「人」「モノ」「情報」が集まる中核市、そして経済県都として成長を続けています。

総人口は329,359人、世帯数は135,416世帯です(平成27年1月1日現在)。

(2) 郡山市の被災状況

東日本大震災では、郡山市は震度6弱の揺れに襲われ、人的被害(死者1名)や住宅被害(全壊2,433件、半壊21,325件、一部損壊33,772件)のほかにも、市役所をはじめとする公共施設や道路・橋梁等の被害が多数発生しました。

今なお東日本大震災や原子力発電所事故による災害が市民生活に影響を及ぼしているなか、平成26年10月には「B-1 グランプリ」が開催され、2日間で40万人を超える来場者が郡山市を訪れました。ほかにも復興イベントが多数開催されるなど、復興に向けて着実に歩みを進めています。

(3) 民生委員・児童委員の構成

法定単位民児協数 34 民児協

民生委員・児童委員 623名(うち主任児童委員70名)。

(4) 震災後の民児協活動

震災直後は、大きな混乱のなかでしたが、各地区の民児協において、行政や社協、関係機関と連携し、要支援者の安否確認を最優先として、被災者の生活復旧・復興に向けた相談・支援活動に取り組むことができたのではないかと考えています。

郡山市は市域が広範囲であり、郡山市全域を対象とした組織的な支援活動が困難な状況ではありますが、地域ごとに、それぞれの地域性を考慮したなかで、個別に、あるいは各地区民児協として組織的に、被災者や避難者に対する相談支援活動に取り組んできました。

(5) 終わりに

震災からまもなく4年を迎えますが、いまだ多くの方々が避難生活を余儀なくされており、郡山市においても約8,000名を超える避難者が仮設住宅、借上げ住宅等で暮らし続けています。一方で郡山市内にも復興公営住宅の建設が進められており、すでに入居が始まっている住宅も複数見受けられます。そういう意味では、避難者が必要としているサポートも新たなステージに入っており、今後は避難者を含めた「新たな絆づくり」を推進し、「共に支え合える地域づくり」に向けた取り組みが求められるものと考えています。

最後に、震災以降、全国の民生委員・児童委員の皆様方から様々なご支援、温かい励ましのお言葉を賜りましたことに、この場をお借りしてあらためて御礼申し上げます。たくさんのご支援、ご協力ありがとうございました。